

# 私たちがめざす藤沢の未来と新しい総合計画

## 総合計画の目的

私たちがくらす藤沢市。このまちのよりよい未来の姿を実現していくために、私たち市民が、「藤沢市の最も基本となるまちづくりの考え方を表した計画」を知り、みんなで同じ考えをもち合うことはとても大切です。

藤沢の20年後を考えたとき、私たちがどのように考え、何をめざし、何をこなすのかをまとめたものが「総合計画」です。

## この本でわかること

この本は、藤沢市に住んでいる子どもたちをはじめ、すべての市民のみなさんのためにつくられました。藤沢の未来への「地域づくり」や「藤沢づくり」とともに考え、ともに参加していただけるよう、総合計画の基本構想をわかりやすくまとめたものです。

### 目的1「時代の変化に対応できるしくみをつくること」

現在の社会や経済が10年後・20年後にどうなるのか、私たちにはどういう未来が待っているのかは、だれにもわかりません。そこで、データや調査だけでなく、さまざまな活動をされているひとや多くの市民のみなさんから意見や情報を集め、藤沢のこれからの時代の変化に柔軟に対応できるしくみを整えました。

### 目的2「市民・地域と行政のそれぞれの役割を活かし、協力を強めるしくみをつくること」

この総合計画は行政だけでなく、市民のみなさんにもまちづくりに参加していただくためのものです。みんなが協力し合うことで、より強いしくみが生まれます。そのしくみを、「私たちの政府」が創る藤沢づくりとして考え方を整理しました。

### 目的3「市民のみなさんに藤沢の未来を一緒に考えていただくこと」

この総合計画は市民のみなさんに目とおしていただき、いっしょに藤沢の未来のことを考えていただくことを基本に整理しました。

総合計画は、市民のみなさん、地域のみなさん、そして行政が力を合わせる、いままでにないしくみです。この藤沢市の新しい挑戦が、可能性にあふれた未来の地域づくり、そして藤沢づくりを実現していくこととなります。



## 市民のみなさんの総合計画

市民のみなさん、地域のみなさんと行政が協力して、この20年先をみすえた「地域づくり」と「藤沢づくり」※1を推進するための計画として整理しました。

### ※1「地域づくり」と「藤沢づくり」:

市民のみなさん、地域のみなさんと行政が、それぞれの地域が持つ自然、歴史、文化などの地域資源や魅力を活かして、それぞれの地域に応じた地域のまちづくりをすすめていくことを、「地域づくり」といいます。

また、地域のまちづくりとあわせて藤沢市全体の生活・産業・交通などの環境を整え、市民のみなさんの暮らしやすさを向上し、活力を生むまちにしていくための市全体のまちづくりのことを、「藤沢づくり」といいます。

メモ

## 総合計画の全体のながれ

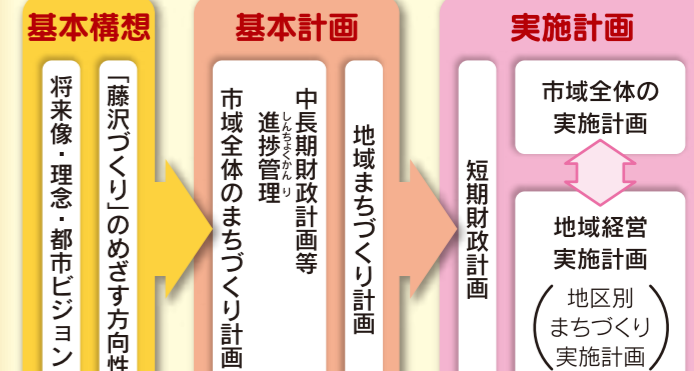
総合計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3つで構成されています。

総合計画では、市民のみなさん、地域のみなさんと行政が協力し、地域づくりや藤沢づくりをすすめていくための将来像、目標や方向性が示されています。



## 新総合計画の構成

### 理念と目標の共有



### 1 基本構想 ～湘南ふじさわの未来へ向けた構想～

藤沢の20年後(2030年度/平成42年度)までをみすえ、藤沢市のめざす将来像と将来像を実現していくための基本理念や都市ビジョン、そして9つの「藤沢づくりのめざす方向性」を明らかにしています。また、「私たちの政府」が創る、いまま未来も住み続けたいまち「湘南ふじさわ」を実現していくためのしくみなどが示されています。



### 2 基本計画 ～地域づくりと藤沢づくりの基本となる計画～

基本計画は、基本構想の将来像、基本理念、都市ビジョン、藤沢づくりのめざす方向性を受けて、「ふじさわ未来課題」を解決していくために必要な目標や活動の方針を、市域全体、地域ごとのまちづくり計画として示しました。また、12年の計画期間の活動をうらづけるための財政計画が示されています。

行政は、藤沢づくりの将来像の実現のための基本となる方向を示した、「市域全体のまちづくり計画案」をつくりました。各地区の地域経営会議と市民センター・公民館は、地域づくりの方向性を示した「地域まちづくり計画案」をつくりました。

そして総合計画審議会でくわしく検討や議論が行われ、基本計画となり、それぞれの計画は車の両輪となり、力強く藤沢づくりをすすめていくものとなります。



### 3 実施計画 ～具体的な事業や活動を明らかにした計画～

各地区の地域経営会議と市民センター・公民館は、地域の市民のみなさんの意見をききながら、「地区別まちづくり実施計画案」をまとめました。

行政は、市民のみなさんの意見をききながら、市域全体の実施計画案をまとめ、市長が実施計画と3年間の財政計画をつくりました。この実施計画は、1年ごとに事業や活動の進捗管理※2をおこない、次の実施計画へつなげていきます。



※2 進捗管理: 実施計画は、1年ごとに実施した事業や活動のチェックをおこない、そして悪いところをよしたり、変更して次の計画へつなげることをくり返します。

メモ

この実施計画を見直しながらかりと計画をすすめることを進捗管理と言い、PLAN(計画)→DO(実施)→CHECK(チェック・評価)→ACTION(改善)の頭文字をとって、PDCAサイクルとも言われます。